

第9期第1回府中市美術館運営協議会報告書

■日時 平成28年11月26日（日） 午前10時～12時

■場所 府中市美術館会議室

■出席者 委員（順不同・敬称略）

薩摩・谷矢・鷺尾・大杉・米谷・隠岐・馬場・吉田・畔上・石田
清水（欠席 堀江）

事務局

藪野館長・須恵副館長・尾崎管理係長・志賀学芸係長
武居教育普及担当主査・原田事務職員

■傍聴者 なし

■内容

1 開会

（1）事務局職員紹介

（2）委員自己紹介

2 委嘱状伝達

3 府中市美術館館長挨拶

4 正副会長選出

互選により会長に薩摩雅登氏、副会長に谷矢哲夫氏就任。

5 諮問伝達

6 議題

（1）平成27年度の事業実績、平成28年度の課題について資料にそって説明

以下、□は各委員の発言、■は事務局

□「府中市美術館の目的、現状、課題について事務局から説明を受けましたが、これがそのまま答申の1番2番となるわけではありません。これから委員の我々が自由に議論をしていけば良いのですが、まずは初回ということもありますので資料を踏まえながら、質問なども含め、この美術館をどのようにしていったらよいか、あるいは何を求めたいかなどを、少なくとも一人一言は発言していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします」

□「教育普及事業の充実について。小中学校の美術鑑賞教室や、市民ギャラリー

での市内小中学生の作品展示だけでなく、学校を訪問して授業を行ったと教師から聞き、非常に良いと思った。ただ、授業では話が聞けるのが1クラスだけ。全校生徒520名以上のうち30人程度では、せっかくの講演も全体に広げることは難しいと感じている。

中学生に美術の裾野を広げていくには色々な方法があるが、中学校の中で一番美術が好きなのは、やはり美術部の子ども達だと思う。本校でも30人程部員がいるが、そういう子どもたちが興味を持って大きくなった時に、また美術館に行くような形にできればと思う。ただ、現状の各中学校の美術部員が何をしているのかというと、実はイラストを描いている児童が多く、油絵や彫刻などをしている児童は少ない。美術館でワークショップを開催する形も良いと思うが、逆に学校に指導に来てもらい、美術部員が油絵を制作するなど、興味を持てる機会を設けると、クラス単位で授業を行うよりも、興味を持っている子にさらに美術への興味を深められるのではないかと感じている。

それから、資料の入場者数の推移というところで、これは入場者の年代別データなどは取っているのかを聞きたい。というのも、委員の自己紹介の中で、美術に興味を持ち始めたのが定年後からという方がいた。美術館に来館する方も定年後から、という人が多いのかと思うと、どの年代に焦点を当てるかによって、より多くの市民の方に見ていただける美術館作りの参考になるのではないかと思う。

■「入館者の年代性別の全数把握を、現状では行っておりません。サンプル調査と、チケットによる販売数によって一般・高大・小中・未就学の区別をつけて把握しております。チケットの販売数から見た実績では、小中高大の学生は非常に利用が少なく、入館者のほとんどは一般です。その点は私どもも課題としてとらえておりますが、小・中学生は大変忙しい、高校・大学生はさらに忙しいという状況なのか、なかなか来館が難しい状況なのだろうと推測しております。しかしそこを何とか開拓していくのも重要なことだと思っております」

■「美術部の活動に対して指導が出来ないかということですが、美術に感心のある学生に対してだけではなく、理工系に感心のある学生に対しても芸術教育は有用であると考えております。今までにないものを創造する、という事にも芸術教育は活きるのではないかと思うからです。各校へ出張授業については、美術館単独の予算では実施が厳しいかもしれませんが、補助金などを活用するなどできることはないか検討してまいります」

□「来館者の年齢層の話について、先日親子鑑賞を実施していた国立新美術館の展覧会に行った。その時の親子の感想に、美術に興味のある親でも、子どもと一緒に美術館に行ったことはほとんどないというものが多かった。子どもは学校の鑑賞教室などで美術館に行き、親は親だけでツアーや個人で美術館に行く。家

に帰って親子で話をして、楽しかったから今度は一緒に美術館に行く、という展開もあるので、これまで個々でしていた展覧会を、「親子」という観点で展示を考えるのも面白いのではないかと思います。

また、本校ではオリンピックパラリンピック関連事業として予算がついたので、6年生の図工の授業で岩絵具を作るところから始めるという授業を実施している。美術館では、毎年春に江戸絵画の展覧会を開催しているので、児童にそういう体験を通した後に展覧会で本物の日本画を見ることができれば、関心を継続的に持っていけるのではないかと期待している。

その他に、現在のアートスタジオは展覧会と関係のないものが多いが、展覧会に関連する、美術館でしか出来ないようなワークショップを企画するのも良いのではないだろうか。今まで美術館に行ったことのない人への導入として、そのようなものがある之行ってみようという気になるように思う」

□「今回はガラス絵の展覧会があるが、その時にはガラス絵を授業でやってみるということはあるのか」

□「2月頃に予定している。少しずつ実現していきたいので、また美術館にも協力してもらえたらいいと思う」

□「親子という観点について、親子で入館すると他より安価になる「親子チケット」というものをつくるのはどうだろうか」

□「面白い。子どもは無料になるとか」

□「子どもと一緒に来館することで、親単独よりも割引になる、という形になればお母さんたちももっと来やすくなるのではないかと思います。あとメンバーシップ制度と賛助会員について、よく分からないので説明をして欲しい」

■「メンバーシップというのは、年会費 2,500 円で1年間何度でも企画展に入場できるほか、図録購入やカフェでの割引が受けられ、美術館だよりと年間スケジュールが提供されるというサービスです。賛助会員は年会費 5,000 円で、一般のサービスに加え、レセプションの招待状の送付や展覧会ごとのチラシの送付、図録引換券の交付などのサービスを提供しております」

□「企業会員であればもっと高額でも良いのではないかという気もする。例えばある企業が毎年いくらという寄付をすれば、その企業になんらかの優待がある、というような。メンバーシップにしても賛助会員にしても“お得感”がある程度ないと、リピーターに繋がらないのではないかと思います。

先ほどのアートスタジオが展覧会と関連性がないという話について、公開制作の人数も資料にあったが、あれも展覧会にリンクするものがあったとしてもよいのではないかと思います。江戸絵画の展覧会で、自分で絵はがきに好きなスタンプを押すというワークショップがあったが、あれも2階で開催されていたし、1階で行われていることとのリンクが読めないなので、どちらも、どちらかが目的の人しか

行っていないという状況なのではないか。公開制作だけ、展覧会だけ、ではなく両方とも回る気になるような企画があってもよいのではないかと思う」

☐「確かに」

■「親子券の話につきまして、府中市には「府中っ子学びのパスポート」というものがございます。これは府中市在住の小中学生のためのもので、市内の美術館や博物館に無料で入場できるものです」

☐「中学生も無料になるのか」

■「小学生も中学生も、転入生も対象となります。0歳児対象の鑑賞会につきましては、保育支援課の実施する「はじめてアート」という事業に協力をしております。講座室にマットを敷き、乳児も遊べる遊具など置き、保育支援課の保育士がいる中で、子育て中のお母さんがほっとできるような場を提供するのが目的です。美術館に行きたくても子どもが泣き出してしまうかもしれないと来館を敬遠してしまうお母さん方の一助になればよいと思っております」

☐「前期の協議会でも問題になっていたが、親子で来館したら、当然会話は出てくるものだと思う。私も知人と作品の話を熱心にしていて、看士員に注意されたことが何度かあるが、そういう「美術館は静かにしていなければならない所」という思い込みがあるのではないか。静謐な環境を求めているところも確かにあるが、例えば「今日は親子で、うるさくしてもいい日」などを設けて周知するのはどうか。もしくは親子で来館する時は、何日がお勧め、という感じのアピールはできないか。何らかの形で自由にトーキングさせるということが必要だと思う」

☐「子どもたちが絵の前に座りながら、絵について語り合って学ぶということもあるだろうし、けれど騒いだり走ったりしたら叱られるということを実際場で経験するのもいいことだと思う」

☐「先ほどのメンバーシップについて、市民が対象なのか。対象を近隣まで広げたほうが良いのではないか」

■「どなたでもご加入いただける制度です」

☐「あまり宣伝されていないと思う」

☐「周知されていない」

☐「私は府中市民だから分かるけれど、有効期間が1年といっても、すぐに継続するのではなく、展覧会のたびに切れていたらまた入るという形になっているように思う」

■「そういう方が多いです」

☐「どこでもそうなのではないか」

■「年間スケジュールにもメンバーシップのご案内を記載しておりますが、やはり来館のタイミングで入会する方がほとんどという状況です」

□「他の公募展であったことだが、小学生がイベントに参加すると20年有効のパスポートがもらえるというものがあり、子どもたちには、大変評判が良い。大人になってもまた来たい、というつながりが、在学時だけでなく何かしら繋がっていくことが大事だと思う。府中市の美術教育普及は、他市に比べてかなり頑張っている。府中では、子どもたちもその親もある程度作品について話をするこゝへの理解が広まっているが、先日八王子市の学校で講義をしたことがあり、八王子市では美術館では直立不動で見なきゃいけないと思っている方がほとんどだった。そういう意味では府中市は少し前進していると思うが、そういった状況がこの地域では、まだあるということを考えながら普及していくことが大事だと思う」

□「そうですね、ありがとうございます。府中市美術館は柔軟性がある美術館だと思いますが、まだまだ考えることはあるような気がします。ここにいる我々が賛助会員について充分に知らない、という状況では、広報が不十分なのかと思います」

□「秋の大きな展覧会は色んな来館者がいると思う。そういう時に入り口や目立つところでメンバーシップのチラシを配るというのはどうだろうか。ミレー展やローランサン展の時に、資料と一緒に渡せば少しはPRになるのではないか」

□「ぜひ検討をお願いしたいところです。他に、ご意見あればどうぞ」

□「歳入歳出状況を見たが、びっくりするような金額というのが正直な感想。私は会社経営をしているが、美術館は収支がマイナスになっている。施設管理費の中で管理委託料というのは、何を委託しているのか」

■「建築物の機械的な管理や、受付業務、展示室内の看士や警備については全て委託という形です」

□「人件費というのは、美術館館長は非常勤で、それから常勤の市の職員は全部で10人なのか」

■「そのとおりです」

□「市の職員は、10人だけなので、当然その人数でこれだけのことをできる訳はない。そのため警備は警備会社に、電気等の機械設備、清掃、それに展覧会の看士について、専門の会社があるので、ほとんどの美術館がそのような会社に委託している。展覧会の看士員は展覧会によって必要な人数が変わるので、常勤の職員を配置するのは難しい。この展覧会は5人でよいが、次は10人ということもよくあるので、ほとんどを専門業者に委託している。清掃についても、全てを市の職員でまかなうことは難しいので、委託する。委託費といっても、ほぼ人件費と同じようなものだろう」

□「運営協議会なので、集客部分もあるが、運営するのにお金の話も必要かと思う。第8期の答申を見ても、支出の部分についてはほとんど触れていない。例え

ば、資料の施設管理費の諸経費を見ると、平成28年度予算は平成25年度決算の2倍近くになっている。会社を運営する身としては、経費削減に試行錯誤しているところだが、美術館運営の中ではあまりそういう考え方はしないのだろうか。地域に根ざし愛される美術館、ということでどうしたら人が来るか、地域にこういうことをしてより来館者を増やしたい、ということは理解できるが、運営として経費についての話はどうなっているのだろうか、と疑問に思った」

□「私も仕事上美術館運営にも関わるので、答えになるかどうかは分からないが、美術館というのは文化施設で、どうしてもお金のかかってしまうものです。そもそも教育文化は利益を出すことが出来ないものだと思います。その中で、美術館だけでなく教育分野でも色々と、経費削減について努力はすると思います。しかし、教育文化というところは質を求めていく必要もある。展覧会の展示ひとつにしても、デザインひとつにしても、あるいは図録にしても、単純に安いものがよい、ということにはならないものです。学芸員にもある程度のものを作りたいという意思がありますし、なかなか難しいところはあるかと思います」

□「なるほど。やむをえない部分もあるということは理解できました」

■「美術館というのは外部、つまり来館者に向けての展示などオープンスペースもありますが、表に見えない、美術作品の収集・保存・調査という部分もとても大切な美術館としての役割です。作品を保管する上でなるべく劣化させないための空調設備や、火災対策、災害が起きても作品を損なわないようにするための設備があります。当館の収蔵品は市の財産でもありますし、その財産を維持管理するための設備が、壊れることのないようメンテナンスも常に行わなければならない、これにも少なからず費用がかかります。

また、来館者が増えることは展覧会としてはとても嬉しいことですが、人の出入りがあるということは、それだけ外の空気と作品が触れてしまうということにもなります、例えばカビや虫、湿度に二酸化炭素など、作品の劣化に繋がる要因がいくつもあります。それらの影響を取り除くためにもコストがかかってしまいます。経費削減につきましては、もちろん私どもも、進めているところではありますが、先ほどの話にありましたように、展覧会の質を確保したいという思いも、美術館全体の願いでもありますのでご理解いただければと思います」

□「いえ、ありがとうございます」

□「施設に関して、資料の課題の「開館20周年の検討」の中で、「心地よい空間を目指し、ハード面とソフト面の両面から計画的な」とあるが、開館から16年経過し、建物もいろいろと不具合が出始めるころかと思う。それをだましまし使っているとかえって余計な経費がかかるということがあると思う。設備投資というのは、他にも予算がつかない中で厳しいとは思いますが、ただ、照明にしろ空調にしろ、十何年も経過すると効率が悪くなる。交換した方が電気代も節約に

なるだろう。そういったことも検討していったほうが良いと思う。府中市美術館の照明は、まだLEDではないのか」

■「設備メンテナンスにつきましては、出来るところから順次行っております。照明の取替えにつきましては、色温度というものがございまして、美術館で使用する照明は基本的に紫外線をカットすることが必要ですし、照明の色が変わってしまうと、当然それに照らされた作品の色も変わってしまいます。実際にLEDを導入している美術館もありますので、今後慎重に検討しながら進めてまいります。ただ、エントランスや受付などの共用部分につきましては、順次LEDに取替えを行っております。近年のLEDは特別の機器交換が必要ない商品が増えており、やはり電気代の削減にもつながりますので、できるだけ早期に導入できればと考えております」

□「藝大美術館でも、順次導入し始めたと聞いたが、どうですか」

□「照明については技術部門になってしまうが、やはりLEDにすると劇的に電気代は削減できる。また、LEDはあまり熱も発しないので、冷房のための空調費用も抑えられる。そのほか寿命も長いので交換作業の回数も減り、交換作業のために必要な人件費も抑えられるなど利点は多いが、やはりまだ色が白く、蛍光灯に近い。もう少し色温度が、暖色系になると良いと思う。ただLEDに関しては今後一層商品開発が進むことが予想され、数年待てば、同じ性能でも金額が下がるだろうし、同じ金額ならさらに機能の高い物が購入できると思うので、今すぐにと焦る必要は無いと思う。20周年に向けて考えるべきことだとは思いますが」

□「展示物には、LEDに変えることで影響はあるのか」

□「問題はありません」

□「今までの照明より、よくなるのか」

□「基本的には同じですね。他に何かございますか。どうでしょう」

□「子供たちの鑑賞について、これから先を生きていく年代は大事だと思うが、ただ現実的には、我々のような年配者が美術館来館者には多いと思う。例えば、高齢者に向けてのアピールや呼び込みを考える必要があるのではないかと。藤田嗣治展の会場で、母と5歳児で鑑賞している方がおり、一通り会場内を見て、戦争画の前に来た時「はっ」と声を上げていた。何を言うのかと見ていたところ母親が「これが戦争なのよ」と言い、子どもが「ええっ、これが戦争なの。そっかあ」と衝撃を受けたような表情をしていた。私が「絵を見るのが好きなの？」と聞いたら好きだと答え、「今日帰ったら、おじいちゃんとおばあちゃんと、絶対これ見に来たほうがいいよって言ってあげようよ」と母親に言っていた。その時、周囲を見るとやはり来館者は年配の方が多かった。やはり高齢者へ何か働きかける方法があるのではないかと。小学校への出張授業も大変良いことだと

思うが、それこそ文化センターや市役所のどこかに、美術館のポスターだけでなく、複製画を持ってくるというのはどうだろうか。藤田展で驚いたのは絵の大きさと、そこに出てくる迫力だった。そういったものはインターネットやチラシなどでは感じられない物だが、原寸大の複製画などあれば、文化センターや市役所に来る高齢者の方にも、美術館に行ってみようかという気持ちが起こるのではないかと思う」

□「他には何かございますか」

□「課題の最後に多摩地域連携とあるが、具体的に多摩地域の美術館は他に何かあるのかということと、これまで実際、連携企画されたことを教えていただきたい」

■「町田市立国際版画美術館を中心に始められた、多摩ミュージアムネットワーク構想研究会というものがございます。当館の他、小金井市立はけの森美術館や八王子市夢美術館、小平市、武蔵野、三鷹といった市立の美術館などが加盟し、マップを作成したり、スタンプラリーなどを開催したりして、互いに情報共有と来館者の回遊性を高める事業展開を進めておりましたが、予算削減に伴い事業の継続が難しくなり、現在残念ながら機能しておりません。当館は立地として多摩地区では東部にあたり、中心という場所ではございませんが、まずは小金井市や調布市など隣接市から始め、積極的に多摩地区での連携を進めていきたいと考えております」

□「教育関係の分野では、多摩地区での広域の連携があり、頻繁に会合をもっている。そこで、それぞれの場所について、例えば八王子市の東京富士美術館との連携や小金井市立はけの森美術館との連携など、実績が報告され、お互いにどういう取り組みをしているかを共有している。そういった情報を美術館とも共有できれば、個々のつながりを広域的なものにしていけるのではないかと思う」

■「ありがとうございます。」

□「確かに府中市美術館は丁度、区部と多摩と両方に向いているようなところがある。世田谷にも近いし、一方で町田からも近い。そういう意味では、逆にいろんな重要な役割を果たす可能性を持っていると思っている。人数も少ないので大変かもしれないが、これからの時代には必要なのではないかと思う」

□「他に、いかがですか」

□「昨年度は無事、購入費がついて、中西の作品（中西利雄《府中競馬場》）を購入でき、よかったと安堵している。来週はG1レースが競馬場で開催されるということで、海外からも馬がたくさんくるそうだが、とにかく府中にふさわしい作品で重要だと思うし、市民としては、大変喜ばしい。ついては、購入費がつくことを期待しているが、次の予算はどうなっているのかを知りたい」

■「来週が財政課とのヒアリングになっております、美術館としては予算確保に

向けて頑張ってまいりたいと思っております。20周年に向けて計画的に作品収集を続けたく予算請求してまいります」

☐「がんばってください」

☐「応援いたします」

☐「さて、そろそろお時間です。検討課題の中でこの委員会で議題としていきたいのは、やはり開館20周年とオリンピックパラリンピック関係でしょうか。開館20周年やオリンピックパラリンピックに向けた予算請求などの準備については、2019年になってから考えては遅く、我々の協議会である程度の方角性を考えることが課題になると思います。開館20周年に向けてのことはともかく、オリンピックパラリンピックについては、まだ状況がどうなるのか。補助金などもつき始めていますし、東京都からもなにかするよという通知もありますが、実際は分からないことが多い状況です。ただ、東京都から指示されて時間も無いまま、関連事業をやらされるよりは、こちら側から自主的に用意する方針などが必要かと思います。我々の答申がそのまま予算に反映されるということはないかもしれませんが、この協議会で何らかの意見を出していかなければならないと思います」

☐「前回の東京オリンピックの時には、上野にミロのヴィーナスがきた。その時高校生だったが、上野まで見に行ったのは忘れられない。そういったハイライトが上野にあって、サテライトとして多摩の美術館でどう役割分担するかという考えがしないといけないのではないか」

☐「そういった企画も出てくるかもしれません。まだその方針が出来ていないという状況です。本日は初回ということもあり、自己紹介を兼ねながら、という形を取りましたが、協議会の回数も多くないので、委員の皆様には、美術館になるべく多く来ていただいて、来館の際にはいい機会ですから事務室に顔を出したり、あるいは展覧会のイベント時に来たり、というようなことを積極的にしていただければありがたいと思います。それでは、第1回目の協議会はこれで終了したいと思います、どうもありがとうございました。」